



ーは何度も棚田に足を運び、こまめに草刈りをする





棚田一面が 黄金色に染まれば 慌ただしく 稲刈りが始まる





美しくライトアップされる



び、棚田を守るための原動力となって しています」と石田さんは言います。 オーナー数は130組にもおよ

里山の原風景を現代に残す 大山千枚田

棚田とは山の斜面や山間部の傾斜地に階段状につくられた水田です。 山がちな日本ではかつて全国各地で見られましたが、現在では耕作 放棄が進み、最盛期の半分ほどの数に減っているといわれています。 今回は千葉県鴨川市にある大山千枚田にスポットをあて、棚田保全 活動に関わる大山千枚田保存会にお話を伺いました。

枚の面積が小さく、

傾斜地にあること

から、労力のかかる条件不利地域とさ

ら親しまれている棚田ですが、

— 枚 一

里山の美しい原風景として、

は全部で375枚もの水田があります 田はまっさきに放棄されていきました。 間地域の過疎、高齢化などにより、 米の生産量を抑制する減反政策や、 ておけばいずれ消えゆく運命でした。 で減少。高齢化も進み、そのままにし 大山千枚田も同じです。 そんな大山千枚田を守ろうと立ち上 90年代には農家がわずか8軒にま 1970年代ごろからの 大山千枚田に

がったのが、 いくべきものだと気づいたのです」 ての機能、豊かな生態系は、保存して 財産であり、美しい景観や田んぼとし 思っていました。ところが移住してき から放棄されても仕方がないとすら 前にあるもので、 た自分にとっては、棚田はごく当たり 田さんは話します。「ここで生まれ育っ 会から鴨川に移住した人の言葉だと石 の石田三示さんです。 いと言われ、 棚田の景観が非常に素晴らし 初めて棚田がこの地域の 大山千枚田保存会理事長 むしろ面倒な土地だ きっかけは、

97年、石田さんは大山千枚田保存会

地域住民との間で、積極的な交流も行 順調に増加。今では棚田のオーナーと 分で米作りをしてみたい、 度」をスター ナーとして田植えから収穫までの米作 者の増加など、地域の課題を逆手にと われています。「耕作地の放棄や高齢 人々のニーズがマッチし、 と触れ合いたい」という都会に住む 守りたい」という保存会の思いと、「自 りを実施してもらう「棚田オー を発足。2000年には全国でも先駆 今や棚田を大切な財産として活用 空いている区画を貸し出し、 トさせました。「棚田を オーナー もっと自然



## 大山千枚田保存会

南房総地域における草地環境の生態系の 把握とその多面的機能の普及啓発活動

- 千葉県鴨川市
- http://www.senmaida.com/index.php





理事長 石田 三示さん

事務局長 浅田 大輔さん

大山千枚田保存会は、千葉県鴨川市にある大山千枚 田の保全を目的に、さまざまな事業を展開している団体。棚 田を貸し出す「棚田オーナー制度」を軸に、「自然観察会」や 「体験活動」などの事業を実施。大山千枚田の魅力を伝え るとともに、地域全体の活性化に力を入れている。



自然観察会では、子どもから大人まで楽しめるプログラムを企画している。棚 田にいる生き物も大切な財産。生態系を活用してさまざまな事業が行われる

そのほかにも、同団体では、 棚田に

浅田大輔さんは「人が手を加えている 多く、子どもを中心に年間約5000 授業の一環として学校単位での参加も からこそ、美しい景観や生態系が保た などの「体験活動」を企画しています 然観察会」や、 生息する動植物を間近に見られる「自 人が棚田を訪れています。事務局長の わら細工作り

や自然環境など、元来からこの土地に 自然や環境問題にも興味をもってほし あるもの。その地域資源をうまく活用 しい。地域の魅力とはそこに住む人々 深めることで、 を運んでもらい、 んは「米作りを通して何度も棚田に足 楽しさに魅了され、 い」と話します。 かけとして、自分たちの暮らす地域の えたい。棚田での体験をひとつのきっ れているということを子どもたちに伝 して、棚田の魅力を伝える事業を企画 に移住する人も増えてい 四季折々の棚田の美しさや米作りの 地域の魅力を知ってほ 地域住民との交流を 都会から棚田地域 ます。 石田さ

11 / 地球環境基金便り September 2018 No.45